

3. 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は悪化のテンポが緩やかになっている。

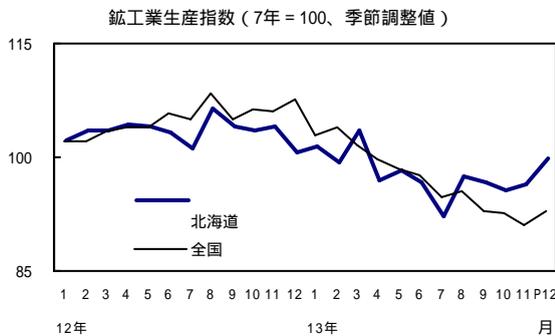
- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費が弱含んでいる。
- ・ 雇用は厳しさを増している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 13 年 11 月）	今回（平成 14 年 2 月）	
総括表現	大幅に悪化している	悪化のテンポが緩やかになっている	
鉱工業生産	大幅に減少	おおむね横ばい	
住宅建設	緩やかに減少	減少	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産では前年を上回っているものの、水産業では前年を下回っている。
 生乳生産（前年同期比）は、飲用牛乳向けが減少しているものの、乳製品向けが増加していることから、10～12月期は2.1%増となった。水産業（主要10港、前年同期比）は、イカが減少したことなどから、10～12月期は水揚量では16.8%減、金額でも16.6%減となった。
- (2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
 紙・パルプは、広告需要の減少等から新聞巻取紙を中心に減少している。食料品・たばこは、一部で牛海綿状脳症の問題の影響を受けたが、塩蔵品等が増加し、おおむね横ばいとなっている。電気機械は、携帯電話の新型機種の生産から無線通信装置が増加し、新型機種の需要を見込んだ在庫積み増しの動きもみられた。窯業・土石は、公共工事や設備投資の減少等から低調に推移しているなか、定期修理の反動増がみられた。金属製品は、道内向けに橋りょうに動きがみられたこと等から増加した。



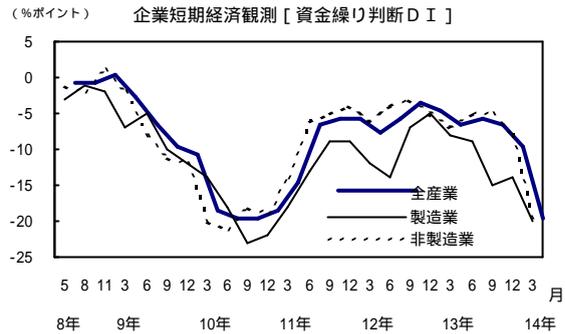
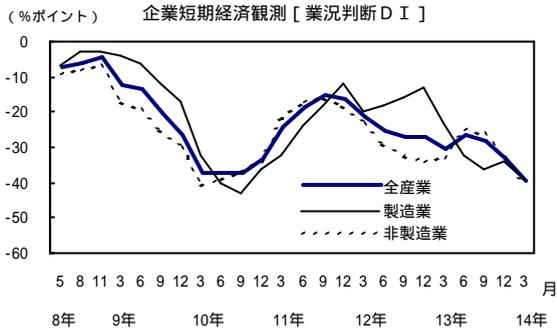
（備考）Pは速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
食料品・たばこ	24.2	1.9	0.3	1.2	5.4
紙・パルプ	13.1	3.3	1.8	3.7	6.5
窯業・土石	10.8	0.8	3.5	6.0	11.4
金属製品	8.4	4.9	10.0	10.8	10.4
電気機械	8.0	9.0	1.2	0.9	19.8
鉱工業	100.0	1.9	1.8	2.4	2.3

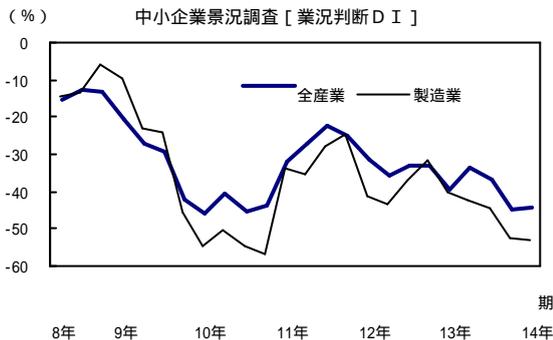
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
 2. 10～12月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「荷主企業が在庫調整の動きが一段と増しており、資材等に限らず、一般消費財に至るまで単価、貨物量ともに大幅に減少している (輸送業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

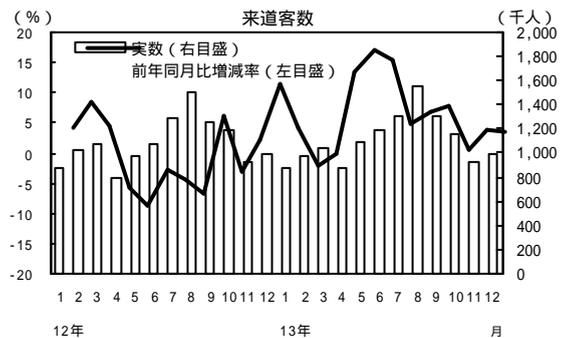
	12年度実績	13年度計画
全産業	18.4	14.2 (2.1)
製造業	34.0	17.5 (8.4)
非製造業	11.5	12.4 (1.5)

(備考)()は前(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は足踏み状態にある。

来道客数 (前年同月比) は、10~12月期は1.3%減となったものの、米国における同時多発テロの影響などにより、年末年始の来道客数は増加している。



(備考) 北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

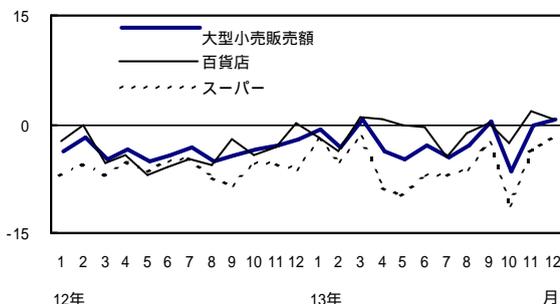
百貨店は、10月は昨年のプロ野球球団優勝セールとの反動減がみられた。11月は地下食品売場の改装やブランド店の増床などの効果から飲食料品や身の回り品が好調に推移し、12月も引き続きリニューアル効果があったことに加え、冬物衣料やクリスマスケーキ、おせち料理にも動きがみられたことから前年を上回って推移した。ただし、札幌以外の地域では前年を下回って推移していることに加え、全店舗ベースでは10～12月期は10.8%減と二ケタ減となっている。

スーパーは、プロ野球球団優勝セールの反動減が10月にあったことや、牛海綿状脳症の問題などの影響から前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「冬物セールのペースが速く、既に最終プライスまで単価が低下している(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



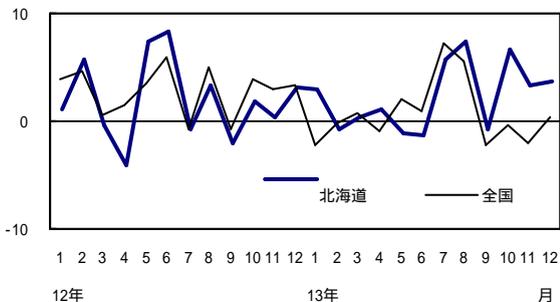
(前年同期比増減率、単位：%)

	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.3	5.2	3.8	3.0
百貨店	1.4	0.0	2.0	0.0
スーパー	2.9	8.6	5.0	5.1
乗用車	1.0	1.9	2.3	3.1
景気ウォッチャー	41.3	41.2	35.9	32.5

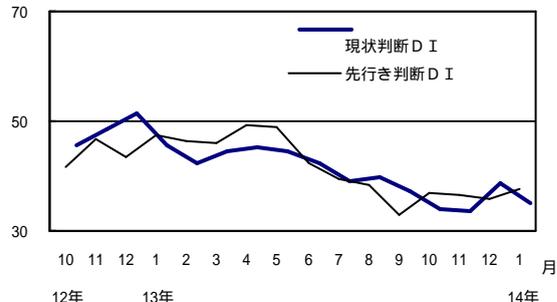
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。

(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連DI)

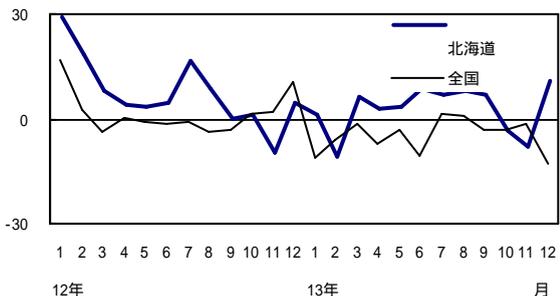


(2) 住宅建設は減少している。

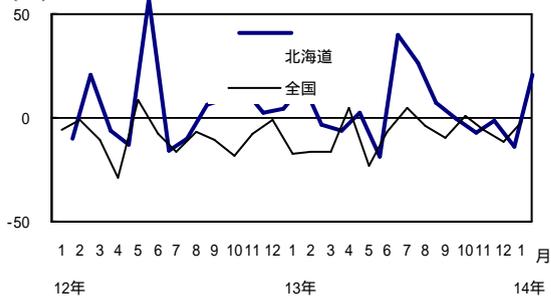
持家を中心に前年を下回っていることなどから減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

(%) 新設住宅着工戸数(前年同月比増減率)



(%) 公共工事請負金額(前年同月比増減率)

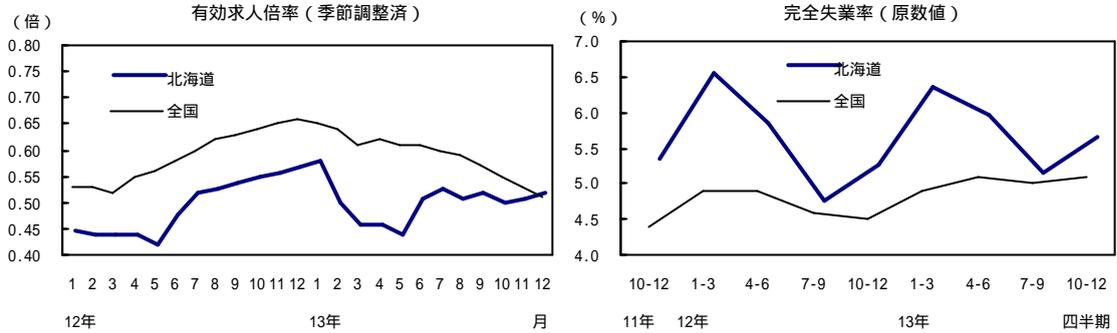


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

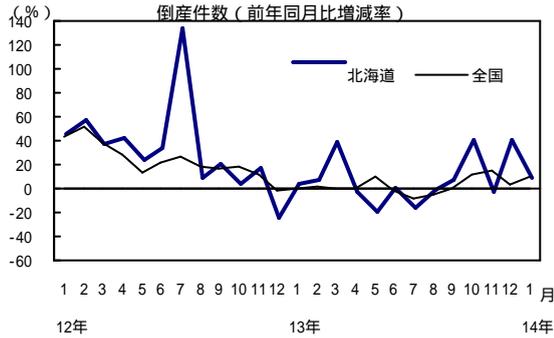
有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「今年の採用を取り止める企業が多い(人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は増加している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	241	191	204	203	67
(前年比)	6.2	19.1	15.0	12.2	1.5
負債総額	709	3,845	999	618	212
(前年比)	54.2	323.2	2.9	9.4	42.8

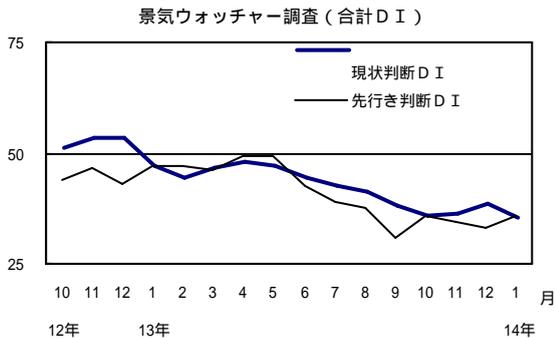
景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

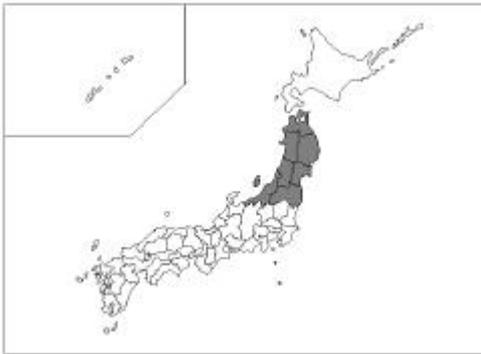
- ・海外旅行の販売に復調の兆しがあり、国内旅行についても堅調に推移している(旅行代理店)。
- ・100円ショップや外食チェーンの出店がある等、業態を越えた競合関係も激化している(コンビニ)。

<先行き>

- ・冬期オリンピック開催に向けてテレビの需要が拡大しているが、前年実績を下回っており、ワールドカップ開催に向けた特需についても期待できない(家電量販店)。



(2) 東北



東北地域では、景気は大幅に悪化している。

- ・ 鉱工業生産が減少している。
- ・ 個人消費は弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢がさらに厳しさを増している。

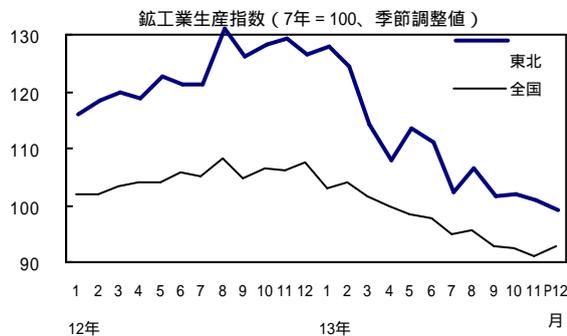
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 13 年 11 月）	今回（平成 14 年 2 月）	
鉱工業生産	著しく減少	減少	
個人消費	やや弱含み	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。

電気機械工業は、このところおおむね横ばいで推移しているものの、半導体関連の在庫調整は進んでいない。食料品は、水産練製品の動きが一進一退で推移している。一般機械は、電気機械等の設備投資の減少は解消していないものの、減少幅は縮小している。輸送機械は、新型車効果の反動に加え、北米向けの輸出の鈍化により減少している。



(備考) Pは速報値。

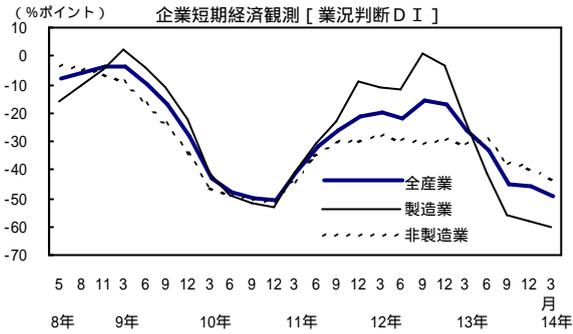
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期		
電気機械	34.8	14.4	0.6	1.1	7.1		
食料品・たばこ	9.3	2.1	1.1	2.1	12.9		
一般機械	7.5	7.6	4.6	3.7	1.2		
繊維	6.7	5.4	0.6	1.8	8.0		
窯業・土石	6.3	9.7	8.5	10.7	0.5		
鉱工業	100.0	6.8	2.8	0.8	0.7		

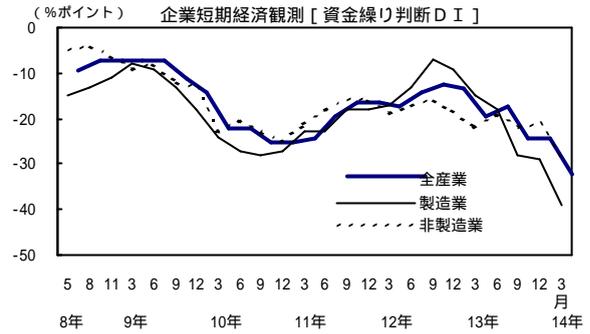
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 10~12月期は速報値。

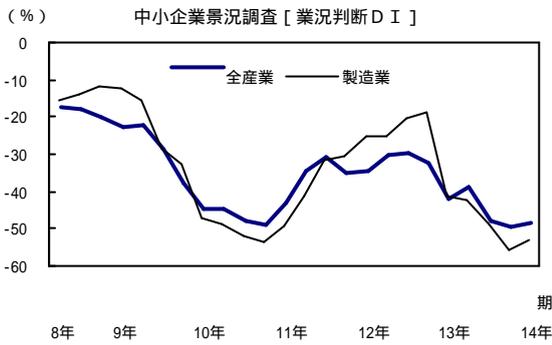
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいであり、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断DI]、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「新商品は順調に推移しているが、全体として販売量に大きな変化はない (食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	3.5	30.5(1.7)
製造業	14.2	36.9(3.4)
非製造業	9.2	20.4(0.6)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。

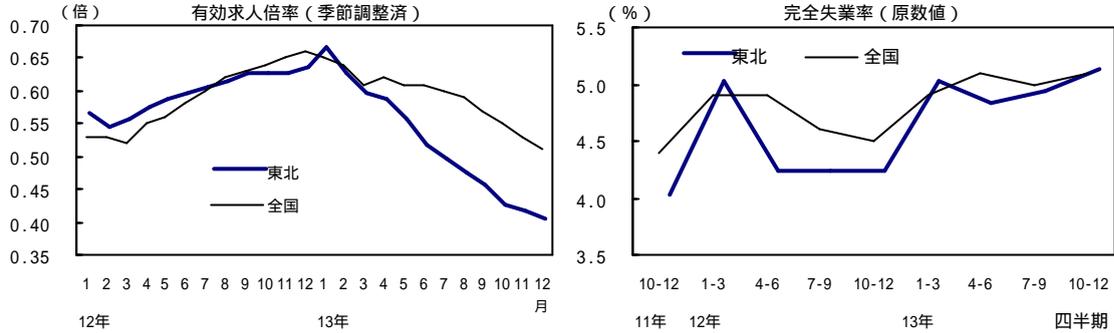


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

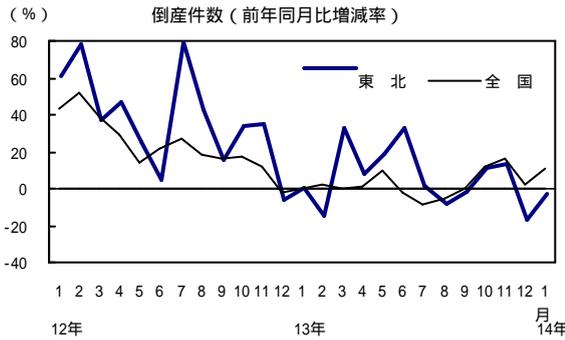
有効求人倍率は、大幅に低下している。完全失業率は、前年同期より上昇し高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「新規求人数が対前年比で8か月連続で減少している。対前月比でも、ほとんどすべての業種で求人が減少している(職業安定所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数は減少している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	390	392	357	385	116
(前年比)	0.8	12.3	10.1	3.8	9.4
負債総額	2,020	1,104	1,990	1,162	444
(前年比)	118.4	64.6	28.3	1.5	64.3

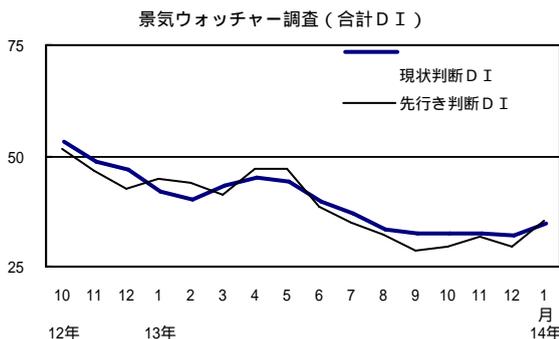
景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・例年に比べ雪も少なく穏やかな天候で、既存店ベースの来客数、客単価、売上ともに、対前年比で100%近い状況である。しかし、青果物の相場が安い上、食品メーカーの牛肉偽装事件以来、客の該当ブランド購買拒否の状況が日増しに強まっている(スーパー)。
- ・20~30歳代の事業主都合離職者が大幅に増加しており、企業整理の影響が中高年だけでなく若年層にまで及んでいる(職業安定所)。

<先行き>

- ・求人広告、求人数とも良くなる兆しは全くみえない。地元の大型ショッピングセンターの倒産もあり、景気はますます悪くなる(新聞社[求人広告])。



(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は一段と悪化している。

- ・ 鉱工業生産が大幅に減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢がさらに厳しさを増している。

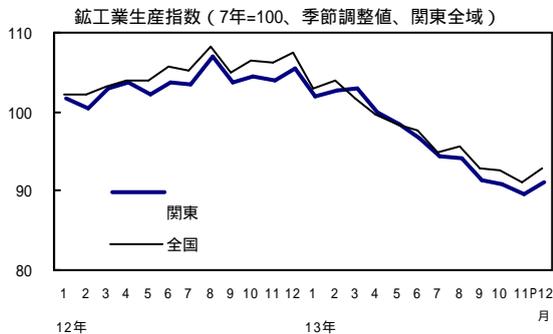
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 13 年 11 月）	今回（平成 14 年 2 月）	
鉱工業生産	著しく減少	大幅に減少	
設備投資	13 年度計画は前年度実績とほぼ同水準	13 年度計画は前年度実績を上回っている	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
雇用情勢	厳しさを増している	さらに厳しさを増している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。（関東全域）

電気機械は、12月にPHS・携帯電話や動画対応携帯電話用の液晶素子を中心に前月比で上昇したものの、IT関連の不振から半導体などの電子部品を中心に生産の基調として減少が続いている。一般機械も、12月に半導体製造装置やプレス用金型などを中心に前月比で上昇したものの、基調として減少が続いている。輸送機械は12月に普通自動車や駆動伝動・操縦装置部品などを中心に前期比で上昇したものの、基調として減少が続いている。化学は、石油化学部門でエチレンの生産調整がみられるが、基調としては緩やかに増加している。



(備考) Pは速報値。

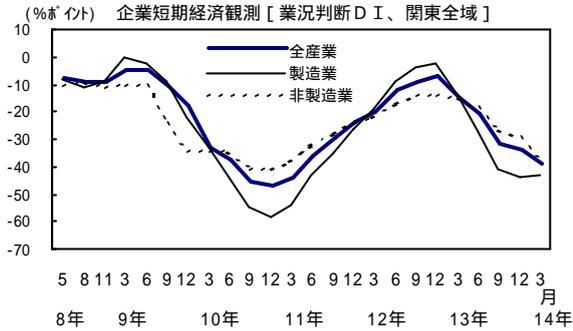
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期		
電気機械	23.6	11.2	5.7	6.7	9.2		
化学	13.2	2.6	1.0	0.8	3.1		
一般機械	12.0	11.2	6.0	9.7	2.7		
輸送機械	11.3	1.1	4.4	1.3	9.5		
食料品・たばこ	5.8	1.7	3.0	2.6	6.0		
鉱工業	100.0	5.5	3.2	3.7	4.0		

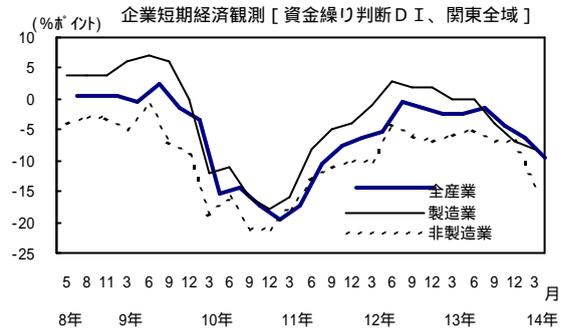
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

2. 10～12月期は速報値。

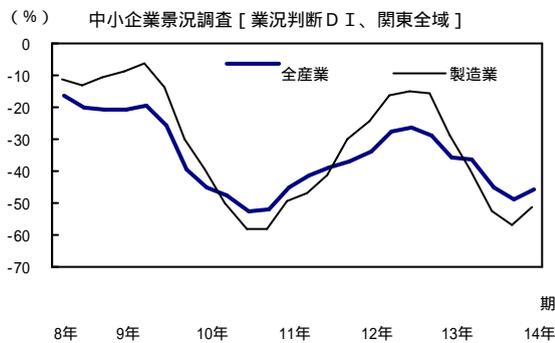
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「電機産業を中心に、地元大手製造業が海外移転や工場の統廃合を行っており、地域中小企業は受注が減少している (その他サービス業 [放送])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位: %)

	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1	3.5 (2.2)
製造業	9.2	3.0 (4.9)
非製造業	6.6	4.3 (3.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

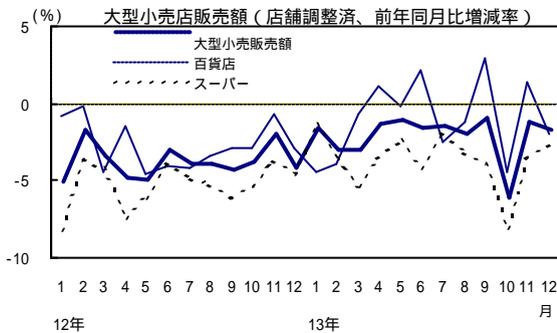
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は低温により秋物衣料が好調であった9月の反動や牛海綿状脳症の影響により衣料品、食料品を中心に前年を下回った。11月は歳暮ギフトの早期受注、リニューアル効果、ブランド品志向により飲食料品、衣料品、身の回り品が好調で2か月ぶりに前年を上回った。12月はブランド品志向や閉店した店舗の取り込み需要が続いていることなどから身の回り品は好調であったが、ギフトの早期受注の反動による飲食料品が不振や紳士服・洋品の不振による衣料品が伸び悩みにより、再び前年を下回った。

スーパーは、10月に低温により秋物衣料が好調であった9月の反動から衣料品が落ち込んだ。また、消費の二極化による生活必需品の低価格志向や牛海綿状脳症の影響から飲食料品の不振が続き、前年同月を下回る状況が続いている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「食品メーカーの牛肉偽装事件の影響で客の不信感が増大しているため、卸単価が低下し、販売量も減少する状況が続いている(一般小売店[精肉])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

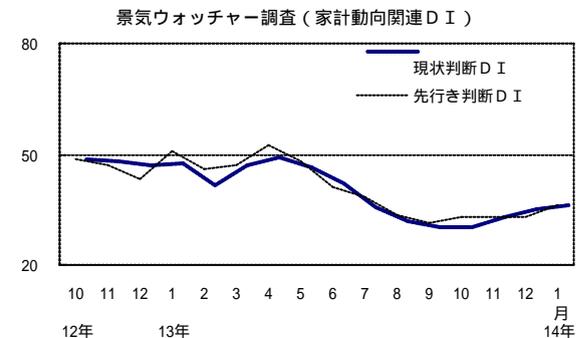


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	3.2	2.0	2.1	3.6
百貨店	2.9	1.0	0.4	1.8
スーパー	3.3	3.4	2.8	4.5
乗用車	1.3	1.3	2.0	2.2
景気ウォッチャー	41.1	41.5	28.3	28.7

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

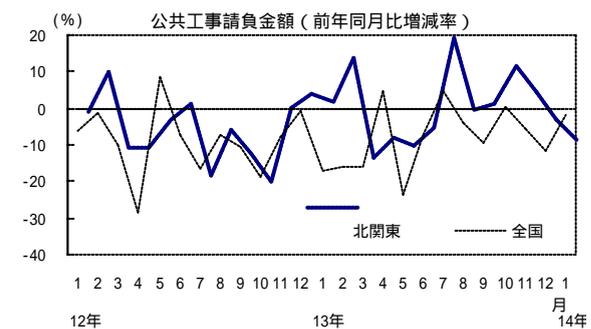
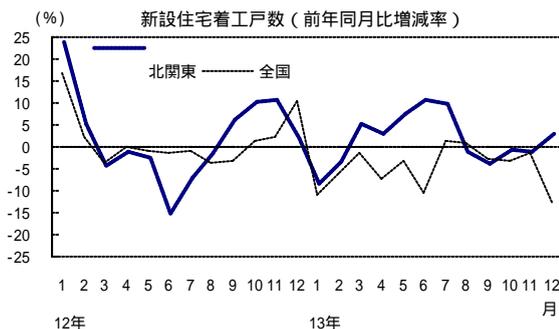
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家を中心に前年を下回っている。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

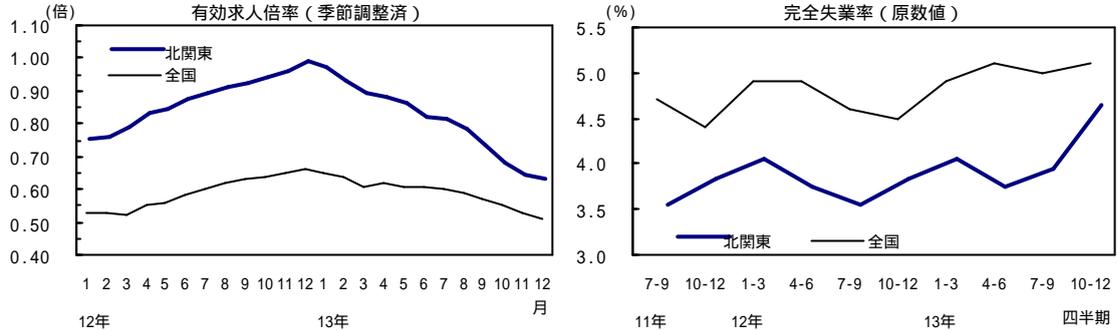


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

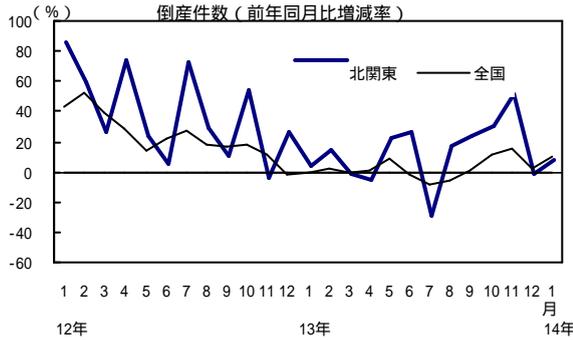
有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「今後も100名規模のリストラや事業所閉鎖が予定されている。企業再編は高い水準で推移し、求職者の増加傾向は続く(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額とも増加している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	241	262	242	299	85
(前年比)	3.6	3.6	6.9	18.7	0.0
負債総額	1,436	881	1,380	1,885	350
(前年比)	46.0	28.4	16.0	31.3	51.5

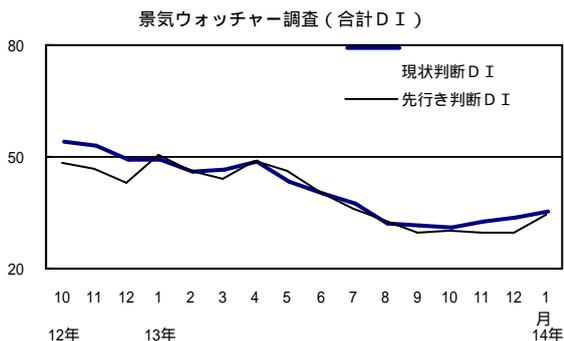
景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・他店と差別化を図った結果、来客数、客単価ともに、対前年比で2割以上伸びている。努力次第で、良くなる(スーパー)
- ・受注の減少や生産拠点の海外移転により、各企業ともかなりの余剰人員を抱えているため、人員整理や休業及び出向などで雇用調整が行なわれており、非自発的離職者の離職者全体に占める割合が初めて30%を上回っている。中高年齢者の離職者も増加している(職業安定所)

<先行き>

- ・今まで少なかった海外方面、沖縄の予約が復活してきている(旅行代理店)



(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は一段と悪化している。

- ・ 鉱工業生産が大幅に減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 住宅建設は減少している。

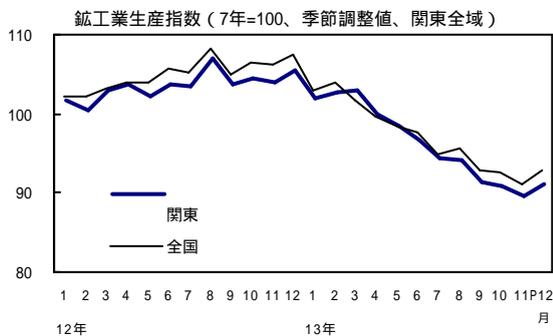
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 13 年 11 月）	今回（平成 14 年 2 月）	
鉱工業生産	著しく減少	大幅に減少	
設備投資	13 年度計画は前年度実績とほぼ同水準	13 年度計画は前年度実績を上回っている	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	緩やかに減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。（関東全域）

電気機械は、12月にPHS・携帯電話や動画対応携帯電話用の液晶素子を中心に前月比で上昇したものの、IT関連の不振から半導体などの電子部品を中心に生産の基調として減少が続いている。一般機械も、12月に半導体製造装置やプレス用金型などを中心に前月比で上昇したものの、基調として減少が続いている。輸送機械は12月に普通自動車や駆動伝動・操縦装置部品などを中心に前期比で上昇したものの、基調として減少が続いている。化学は、石油化学部門でエチレンの生産調整がみられるが、基調としては緩やかに増加している。



（備考）Pは速報値。

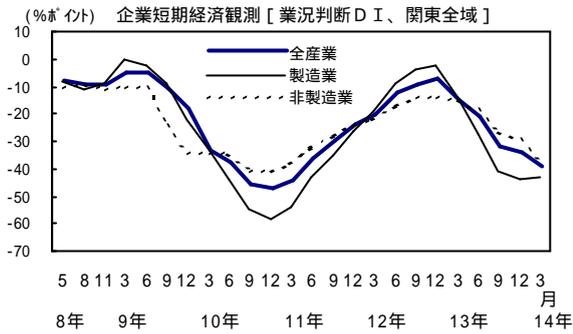
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電気機械	23.6	11.2	5.7	6.7	9.2
化学	13.2	2.6	1.0	0.8	3.1
一般機械	12.0	11.2	6.0	9.7	2.7
輸送機械	11.3	1.1	4.4	1.3	9.5
食料品・たばこ	5.8	1.7	3.0	2.6	6.0
鉱工業	100.0	5.5	3.2	3.7	4.0

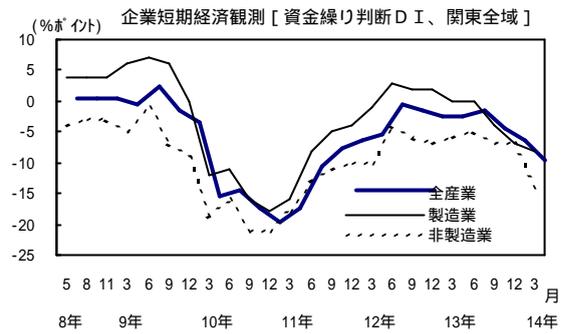
（備考）1．地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2．10~12月期は速報値。

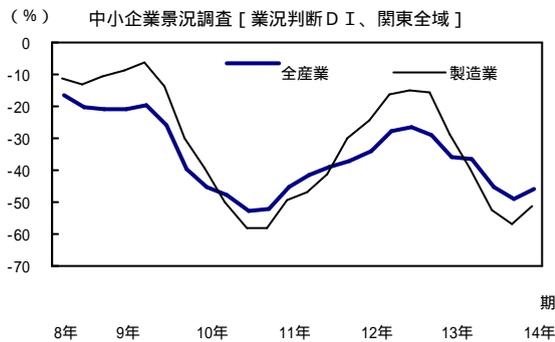
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。3月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「畜肉加工品については、狂牛病の影響が続き、受注量、発注量ともに悪化している (食料品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査、関東全域)]
 (前年度比増減率、単位: %)

	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1	3.5 (2.2)
製造業	9.2	3.0 (4.9)
非製造業	6.6	4.3 (3.2)

(備考) () は前回 (9月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

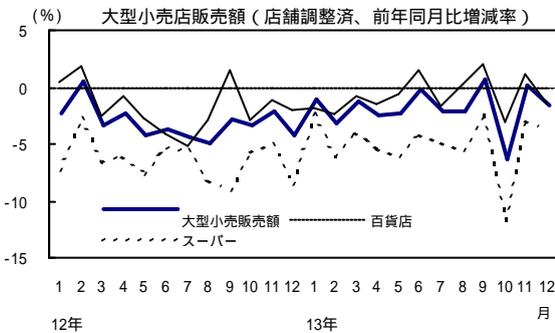
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月はブランド品の靴やハンドバッグなど身の回り品は好調であったものの、低温により秋物衣料が好調であった9月の反動や牛海綿状脳症の影響により衣料品、飲食料品を中心に前年を下回った。11月は歳暮ギフトの早期受注、ブランド品志向、リニューアル効果による売場の差別化といった理由から、飲食料品、婦人服・洋品、身の回り品を中心に前年を上回った。12月は身の回り品は依然好調なもの、歳暮ギフトの早期受注の反動により飲食料品が、紳士服・洋品の落ち込みにより衣料品が、それぞれ不振だったことから前年を下回った。

スーパーは、10月に低温により秋物衣料が好調であった9月の反動で衣料品が落ち込んだ。また、消費の二極化による生活必需品の低価格志向、牛海綿状脳症の影響により衣料品、飲食料品、身の回り品を中心に前年を下回る状況が続いている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

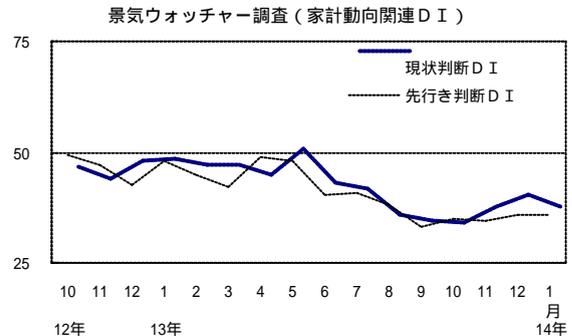
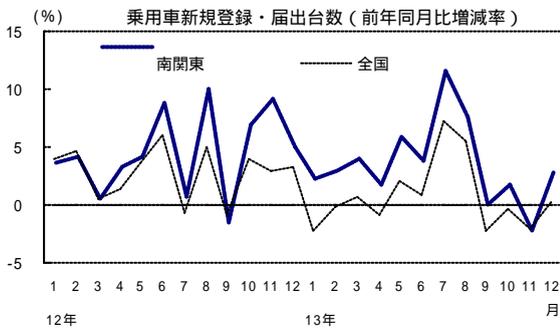
「冬物バーゲンを行っているが、大幅に値下げした商品でも、客の反応は慎重である。以前は少し値下げをすれば売れた商品でも、客は慎重に購入している(衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	12年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.7	2.6	2.2	3.4
百貨店	1.6	0.2	0.0	1.2
スーパー	4.0	5.2	4.5	5.9
乗用車	1.9	2.4	4.8	0.7
景気ウォッチャー	43.9	42.5	33.7	33.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

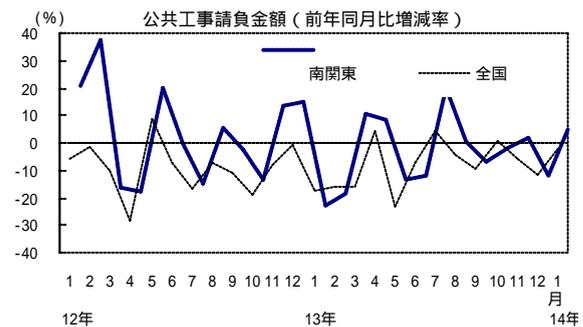
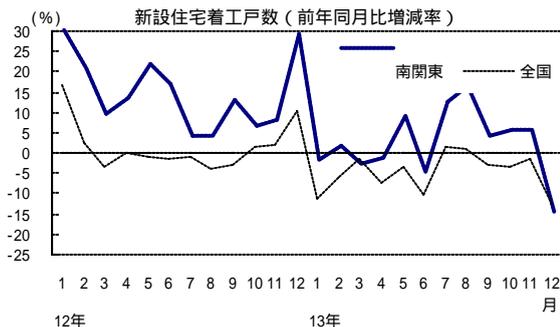
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

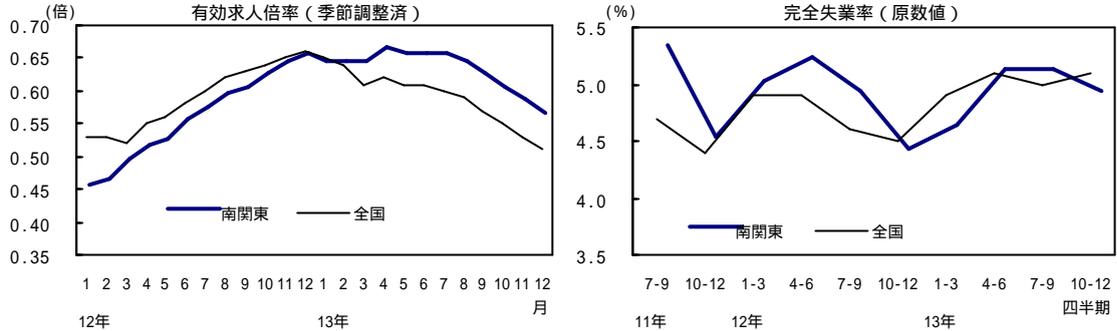


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

有効求人倍率及び完全失業率

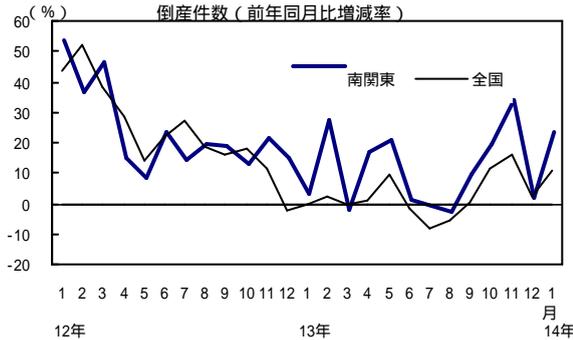
有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (1月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「事業主都合による離職者が、対前年比48.3%増となっている(職業安定所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。



	(件、億円、%)				
	13年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	14年1月
倒産件数	1,301	1,389	1,337	1,554	470
(前年比)	3.5	8.4	2.1	13.8	19.3
負債総額	19,712	10,079	10,699	25,511	3,696
(前年比)	51.6	67.5	69.9	71.8	76.4

景気ウォッチャー調査 (1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・インターネット通販を利用する客が増加しており、売上全体に占める割合は初めて3割強に達している(家電量販店)
- ・本当に必要な物しか買わず、衣料品では昨年の売れ筋や価格を下げた商品でも売れない。唯一売れているのは、ブランド品と入園、入学関連商品である(スーパー)

<先行き>

- ・食品メーカーの牛肉偽装事件が発生し、精肉を中心に、食品への不信感から消費は冷え込む(スーパー)

